

課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
公募型研究テーマ 研究概要

課題（研究領域）

行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開

研究テーマ名

生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成

責任機関

国立大学法人東北大学

研究実施期間

平成26年10月～平成29年9月

研究プロジェクトチームの体制

氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者兼グループリーダー (脳計測実験グループ) 杉浦 元亮	東北大学・加齢医学研究所・准教授
分担者 野内 類	東北大学・災害科学国際研究所・助教
野澤 孝之	東北大学・加齢医学研究所・助教
グループリーダー (社会心理グループ) 佐藤 翔輔	東北大学・災害科学国際研究所・助教
分担者 阿部 恒之	東北大学・文学研究科・教授
本多 明生	山梨英和大学・人間文化学部・准教授
板倉 有紀	東北大学・文学研究科・研究員
グループリーダー (教育・実線グループ) 邑本 俊亮	東北大学・災害科学国際研究所・教授

保田 真理	東北大学・災害科学国際研究所・助手
サッパシー・ア ナワット	東北大学・災害科学国際研究所・准教授
山口 浩	岩手大学・人文社会科学部・教授
佐々木 誠	岩手大学・三陸復興推進機構・特任准教授
阿部 恒之	東北大学・大学院文学研究科・教授
荒木 剛	東北大学・加齢医学研究所・助教

配分（予定）額

（単位：円）

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3,000,000	3,450,000	2,560,000	2,700,000

※平成27年度・平成28年度・29年度については予定額

研究目的の概要

本研究では危機を回避したり困難を克服したりするための人間の内面的な力（生きる力）に関する実証的・学際的な研究の展開を目指す。具体的には「災害を生き抜く性格・考え方・習慣とは何か？」という問いに対する東日本大震災の被災者の様々な回答から、社会心理学的に抽出した8つの生きる力因子について、認知・神経科学的な検証・分析を行い、その知見に基づいた災害・一般教育実践研究の場を創生する。この研究は一面では東日本大震災の体験をいかに語り継ぐかという災害社会科学的課題への回答であり、また一面では中央教育審議会答申（1996）で「変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たち」に必要とされた生きる力をどう実証的に教育現場に実装するかという教育的な問いへの回答であるという点で、現在の日本の人文社会科学的課題の核心である。本研究では生きる力をもたらす認知や行動、その背後にある神経的基盤を明らかにすることで生きる力という概念を実証的に定義し、伝統的な人文・社会科学アプローチの現状・限界を打破する。これによって生きる力をもたらす情報やそれを伝えるべき対象を実証的に取捨選別したり、教育実践等の諸要因について生きる力との関連性を定量的に評価する新しい文理融合学問領域を開拓する。

研究計画の概要

申請グループでは東日本大震災の被災者を対象とした聞き取り調査・アンケート調査から8つの生きる力因子を抽出した。本研究では、これら8つの生きる力因子が、それぞれどのような文脈でどのような知覚・評価・判断・行動の認知プロセスの個人差で説明されるのかを明らかにするために、健常被験者を対象に危機回避と困難克服場面を模した実験課題をMRI装置内で実施させ、脳活動を計測する。各生きる力因子について、得点が脳活動と相関する領域に関する先行神経科学知見や質問紙データとの相関から、その認知・神経基盤を検討する。さらに、その知見を人文・社会科学、特に災害・一般教育実践に反映させる上で、必要・適切なデータの解析方法、結果の表現・解釈や、さらには認知神経科学的研究デザインのあり方について議論・検討するために、災害教育を中心に様々な教育現場の理論家・現場当事者と共に共同でレジリエンス研究を実施する。その成果・経験に基づいて、必要に応じてデータの追加解析を行ったり、新しい研究のデザインを立案したりする。これを通じて分野やフィールド間での方法論・価値観の違いを相互理解・補完し、「生きる力」を実証的に活用する新しい文理融合学問領域を開拓する。